

令和7年度 事後評価シート

【事務事業シート】

12月 補正	事 項	漁業用燃油・飼料高騰対策支援事業費								予算主管課	漁政課
	事 業 概 要	燃油や飼料の価格高騰の際に補填を行うセーフティネット構築事業について、発動の際の取崩金の一部を支援することで、同事業への加入・維持を促進し、価格高騰の影響を受けにくい漁家経営体質への転換を図る。								始期	2022
										終期	2026
	K P I	セーフティネット構築事業加入件数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
			R 4 年 度	目標値	－ 件	目標値	燃油1234,飼料277 件	目標値	燃油1110,飼料262 件	目標値	48.8 %
		実績値	燃油 917 件 飼料 258	実績値	燃油990,飼料258 件	実績値	燃油1018,飼料257 件	実績値	燃油1007,飼料251 件	実績値	%
		ストック /フロー	ストック	達成率	－ %	達成率	- %	達成率	- %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計 予算額	272744 千円	最終現計 予算額	291845 千円	最終現計 予算額	603714 千円	最終現計 予算額	千円
				決算額	272436 千円	決算額	271548 千円	決算額	245979 千円	決算額	千円
				繰越額	285782 千円	繰越額	千円				
					不用額	71953 千円	不用額	千円			
7 年 度	要因分析	要因 R6.12月補正予算計上により終期延長（R6→R7） R7目標値 燃油1,110件、飼料262件。 R7.12月補正予算計上により終期延長（R7→R8）、KPI変更（加入件数→加入率） R8目標値 48.8% セーフティーネット構築事業への加入件数について、燃油・飼料ともに目標値未達成となっている。燃油・飼料とも加入率自体は前年度より上昇しているものの、高齢による廃業等により、漁業者全体数が減少していることが大きな要因と考えられる。また燃油については、価格高騰が飼料と比較して比較的落ち着いたことに加え、県内の漁船漁業の事業者は近海を漁場とする零細事業者が多いため、燃油高騰の影響をあまり受けず、セーフティーネット構築事業への加入意欲が想定より伸びなかったためと考えられる。 総括									
	見直し方向性	維持	燃料価格の高止まり及び飼料価格の高騰は依然として続いており、これらの価格高騰の影響を受けにくい経営体質への転換を図るため、引き続き本事業を実施しセーフティネット構築事業未加入者の加入を促進する必要がある。								

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	水産業強化支援事業費								予算主管課		水産課				
	事 業 概 要	水産物安定供給に必要な漁業生産基盤としての共同利用施設の整備を図るため、市町等 が実施する漁業構造改善事業に要する経費の一部を補助する。								始期						
										終期						
	K P I	本事業による漁業共同施設の整備箇所数														
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度						
		R 4 年 度		目標値	26 箇所		目標値	27 箇所		目標値	29 箇所		目標値	31 箇所		
		実績値	23 箇所		実績値	25 箇所		実績値	27 箇所		実績値	28 箇所		実績値	箇所	
		ストック /フロー	ストック		達成率	96.2 %		達成率	100 %		達成率	96.6 %		達成率	%	
		コ ス ト		最終現計 予算額	千円		最終現計 予算額	409435 千円		最終現計 予算額	300238 千円		最終現計 予算額	千円		
	決算額			千円		決算額	108847 千円		決算額	300191 千円		決算額	千円			
						繰越額		千円		繰越額		千円				
						不用額		47 千円		不用額		千円				
7 年 度	要因分析	要因 事業の対象である漁業協同組合からの要望減によるもの。														
		総括														
	見直し方向性	維持	目標は達成できていないが、96.6%とかなり良好な水準であること及び当事業は国の補助事業でもあること から、令和8年度の執行方法の見直しは想定していない。													

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	日本一の養殖マサバ産地づくりプロジェクト事業費							予算主管課	水産課	
	事 業 概 要	天然資源に依存しない完全養殖による人工種苗を用いて、環境に配慮した持続的な養殖生産を図るとともに、他県との差別化や養殖技術の高度化を図り、日本一の養殖マサバ産地を目指す。							始期	2024	
									終期	2026	
	K P I	水産研究センターにおけるマサバの人工種苗生産尾数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	0 尾	目標値	10000 尾	目標値	50000 尾	目標値	95000 尾
		実績値	尾	実績値	尾	実績値	45000 尾	実績値	104000 尾	実績値	尾
		ストック /フロー	フロー	達成率	%	達成率	450 %	達成率	208 %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	6096 千円	最終現計 予算額	5472 千円	最終現計 予算額	千円
	決算額			千円	決算額	5330 千円	決算額	4694 千円	決算額	千円	
					繰越額	千円	繰越額	千円			
					不用額	778 千円	不用額	千円			

7 年 度	要因分析	要因								
		総括								
	見直し方向性	維持	7年度の目標達成率は想定よりも高く、事業の進捗状況を踏まえると、KPIは目標達成と考えられることから、8年度の執行方法の見直しは想定していない。							

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	超高級魚シロアマダイー大産地化プロジェクト事業費							予算主管課	水産課	
	事 業 概 要	漁船漁業の所得を向上させるため、全国的に漁獲量が極めて少なく超高級魚であるシロアマダイの種苗生産技術を確立して、放流用種苗の量産体制を構築するとともに、放流技術の開発や漁業者と一体となった資源管理により、シロアマダイの一大産地を目指す。							始期	2025	
									終期	2027	
	K P I	栽培資源研究所におけるシロアマダイ人工種苗の生産尾数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	尾	目標値	0 尾	目標値	10000 尾	目標値	10000 尾
		実績値	尾	実績値	尾	実績値	尾	実績値	300 尾	実績値	尾
		ストック /フロー	フロー	達成率	%	達成率	%	達成率	3 %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計	千円	最終現計	千円	最終現計	7067 千円	最終現計	千円
				予算額		予算額		予算額		予算額	
				決算額	千円	決算額	千円	決算額	6575 千円	決算額	千円
					繰越額	千円	繰越額	千円			
				不用額	492 千円	不用額	千円				

7 年 度	要因分析	要因 必要量の受精卵を確保できなかったこと及び種苗生産中に大きな減耗が生じたことから、目標未達となった。								
		総括								
	見直し方向性	維持	来年度に向けた対応方針を関係者間で共有しており、KPIは目標達成と考えられることから、8年度の執行方法の見直しは想定していない。							

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	ブルーカーボンを活用した藻場造成体制構築事業費（南予）							予算主管課	水産課	
	事 業 概 要	南予地域では、魚類の生育の場である藻場の減少率が著しく有効な対策に乏しいため、海藻の増養殖によるブルーカーボンの創出、クレジット化により、漁業者自らが、藻場造成を促進する体制を構築して、水産資源や養殖量の増大を図る。							始期	2025	
									終期	2027	
	K P I	海藻養殖や藻場造成に係るブルーカーボン創出マニュアル作成進捗率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	%	目標値	%	目標値	23.3 %	目標値	60 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	%	実績値	23.3 %	実績値	%
		ストック /フロー	ストック	達成率	%	達成率	%	達成率	100 %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計	千円	最終現計	千円	最終現計	1055 千円	最終現計	千円
	予算額				予算額		予算額		予算額		
	決算額			千円	決算額	千円	決算額	788 千円	決算額	千円	
					繰越額	千円	繰越額	千円			
				不用額	267 千円	不用額	千円				

7 年 度	要因分析	要因								
		総括								
	見直し方向性	維持	7年度のKPIの実績は想定通りの結果が出ており、8年度以降は漁業者に加え、水産高校との連携を考えており、さらなる成果の向上につながっていると考えている。							

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

12月 補正	事 項	次世代型自動給餌機導入拡大事業費							予算主管課	水産課	
	事 業 概 要	飼料価格の高騰により経営が圧迫されている魚類養殖業者においては、飼料コストの低減が必須であるため、効率的な給餌により無駄工サの削減が可能な次世代型自動給餌機導入に係る費用の一部を補助する。							始期	2024	
									終期	2026	
	K P I	支援対象養殖業者の飼料コストの削減率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	%	目標値	%	目標値	6 %	目標値	7 %
		実績値	%	実績値	%	実績値	%	実績値	6.4 %	実績値	%
		ストック /フロー	ストック	達成率	%	達成率	%	達成率	106.7 %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計	千円	最終現計	千円	最終現計	53790 千円	最終現計	千円
				予算額		予算額		予算額		予算額	
				決算額	千円	決算額	千円	決算額	30010 千円	決算額	千円
								繰越額	23360 千円	繰越額	千円
				不用額	420 千円	不用額	千円				

7 年 度	要因分析	要因								
		総括								
	見直し方向性	維持	7年度のKPIの実績は想定通りの成果が出ており、飼料経費削減や燃油などの養殖コストの削減も見込まれる。養殖業者から次世代型給餌機の需要も高く、さらなる成果の向上を期待する。							

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

6月補正	事 項	海業振興支援事業費							予算主管課	漁港課						
	事 業 概 要	海業の展開による漁村地域の所得向上と雇用機会の確保に向けて、漁港施設の活用を促進するため、漁業協同組合等の海業への取組みに必要な調査、効果分析、取組みの実証等を支援する。							始期	2024						
									終期	2026						
	K P I	漁港施設等活用事業に取り組む団体数														
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度						
		R 4 年 度		目標値	団体		目標値	団体		目標値	1 団体	目標値	3 団体			
		実績値	団体		実績値	団体		実績値	団体		実績値	1 団体		実績値	団体	
		ストック/フロー	ストック		達成率	%		達成率	%		達成率	100 %		達成率	%	
		コ ス ト			最終現計	千円		最終現計	千円		最終現計	9000 千円		最終現計	千円	
					予算額			予算額			予算額	5000 千円		予算額	千円	
	決算額				千円		決算額	千円		決算額	5000 千円		決算額	千円		
							繰越額	4000 千円		繰越額	千円					
						不用額	千円		不用額	千円						

7 年 度	要因分析	要因								
		総括								
	見直し方向性	維持	KPIの実績は想定どおりの成果が出ており、現状のニーズを踏まえると KPI の向上が見込まれることから、執行方法の見直しは想定していない。 ※終期延長（R7→R8） R7 目標値 1 団体、R8 目標値 3 団体							

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初

事 項	漁業取締船代船建造設計委託費							予算主管課	水産課	
事 業 概 要	潜水器密漁等の悪質な漁業違反に対応するため、船齢が20年を経過し、老朽化が進んでいる漁業取締船「せとかぜ」の代船建造に向け設計を行う。							始期	2025	
								終期	2025	
K P I	漁業取締船代船建造設計の進捗率									
	KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
	R 4 年 度		目標値	%	目標値	%	目標値	100 %	目標値	%
	実績値	%	実績値	%	実績値	%	実績値	100 %	実績値	%
	ストック /フロー	フロー	達成率	%	達成率	%	達成率	100 %	達成率	%
	コ ス ト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	10334 千円	最終現計 予算額	千円
決算額			千円	決算額	千円	決算額	7997 千円	決算額	千円	
				繰越額	千円	繰越額	千円			
				不用額	2337 千円	不用額	千円			

7 年 度	要因分析	要因								
		総括 漁業取締船代船建造設計委託業務の実施により、基本設計に係る資料を整備することができた。令和8年度は建造を開始し、令和9年度中に代船を完成させる。								
	見直し方向性									

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	スマート水産業普及促進事業費							予算主管課	水産課	
	事 業 概 要	専門家を講師とする最新のスマート水産業に係る研修会を開催するとともに、魚病診断等支援システムの活用を推進するための研修会を開催し、スマート水産業を推進する。							始期	2022	
									終期	2028	
	K P I	スマート水産業人材年間育成数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度		目標値	60 人	目標値	120 人	目標値	180 人	目標値	人
		実績値	人	実績値	80 人	実績値	143 人	実績値	185 人	実績値	人
		ストック /フロー	ストック	達成率	133.33 %	達成率	119.2 %	達成率	102.8 %	達成率	%
		コ ス ト		最終現計 予算額	7260 千円	最終現計 予算額	7436 千円	最終現計 予算額	7436 千円	最終現計 予算額	千円
	決算額			6532 千円	決算額	6778 千円	決算額	6865 千円	決算額	千円	
				繰越額	千円	繰越額	千円				
				不用額	571 千円	不用額	千円				

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

当初	事 項	媛スマ養殖用種苗安定供給事業費							予算主管課		水産課					
	事 業 概 要	愛育フィッシュ全体のけん引役として期待される養殖スマの生産量を増加させ、産業として定着させるため、生残率の向上が期待される大型種苗の供給割合を段階的に増やし、生産者リスクの軽減を図るとともに、スマ種苗を安定供給する。							始期		2019					
									終期		2027					
	K P I	媛スマ種苗生産尾数														
		KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度					
		R 4 年 度		目標値	60000 尾		目標値	110000 尾		目標値	29500 尾		目標値	33000 尾		
		実績値	39700 尾		実績値	104880 尾		実績値	101570 尾		実績値	10300 尾		実績値	尾	
		ストック /フロー	フロー		達成率	174.8 %		達成率	92.3 %		達成率	34.9 %		達成率	%	
		コ ス ト		最終現計	12766 千円		最終現計	11948 千円		最終現計	8746 千円		最終現計	千円		
	予算額					予算額			予算額			予算額				
決算額	12625 千円			決算額	11842 千円		決算額	8129 千円		決算額	千円					
						繰越額	千円		繰越額	千円						
						不用額	617 千円		不用額	千円						

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

11

当初

事 項	種苗生産放流事業費							予算主管課	水産課	
事 業 概 要	沿岸漁業の生産増進に寄与するため、（公財）えひめ海づくり基金や漁協等に供給する種苗を生産するほか、へい死によるアコヤガイの稚貝不足に対応するため、稚貝の緊急生産を行う。							始期	1980	
								終期		
K P I	種苗の販売額									
	KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
	R 4 年 度		目標値	132815 千円	目標値	132815 千円	目標値	132815 千円	目標値	132815 千円
	実績値	119113 千円	実績値	99465 千円	実績値	83699 千円	実績値	108368 千円	実績値	千円
	ストック/フロー	フロー	達成率	74.89 %	達成率	63 %	達成率	81.6 %	達成率	%
	コ ス ト		最終現計 予算額	129677 千円	最終現計 予算額	132225 千円	最終現計 予算額	132331 千円	最終現計 予算額	千円
決算額			85001 千円	決算額	84476 千円	決算額	107729 千円	決算額	千円	
				繰越額	千円	繰越額	千円			
				不用額	24602 千円	不用額	千円			

7 年 度	要因分析	要因 養殖用マダイ及びブリの需要が販売目標よりも少なかったため、販売額が伸びず、未達となった。									
		総括									
	見直し方向性	改善	需要と販売計画の不一致により販売額が減少したため、令和8年度においては、販売目標尾数を見直すとともに、漁業者ニーズを踏まえ生産魚種の変更についても検討する予定。								

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。